

◆2022年 第4週(1月24日~30日)

週明けから埼玉県浦和での一日講演会で今週がスタートする。コロナ禍では主催者も大変で、実行するか中止するかを選択だけでなく、実行するならどのような工夫が必要か、中止するなら代替日をどう決めるのか、この場合の損失はどのくらいかなど、数多くの選択肢から最適な方法を考え出さなくてはならない。今回は、200人の会場を80人に絞り込んで開催となった。

また、参加者は参加者で大変である。コロナ禍の参加は不要でも不急でもないが、そのための健康チェックや普段の交通手段など、やはり数多くの選択肢から最適な方法を選択して参加している。まさに新型コロナウイルスは考える武器を持っている人間に「考える力」を実践させているのではないかと思えてくる。

講師も大変である。最も大変なのは、講師は「新型コロナウイルスに感染できない」ということだ。少しの体調悪化（風邪や腰痛など）なら薬を飲んで注射でも打って何とか演台に上げられる。ただ、コロナは外出できないため講師が会場に行けないことは全てをぶち壊してしまうということになる。主催者、参加者、会場提供者など、数多くの個人や企業にとんでもない損害を与えてしまうことになる。このプレッシャーはなかなかのものでもあるのだ。

また、コロナ禍での参加者には、通常以上の配慮もすることになる。わざわざ出向いてもらっているので、参加料以上の価値をどう提供するかを考えるからだ。そのため、参加者の感想などは気になる点でもある。

今回は、「大変楽しい時間を過ごせた」というコメントや「先生、タフですね」というコメントを多くいただいた。少し趣旨と違う気がする。

今週は東京中心で動いていたが、最近のクライアントとの相談事項では経営者と社員におけるコミュニケーション不足の話題が多くなりだしている。互いの伝え方の問題で「社会人力養成講座」の一つにある「伝達力」という考える力の使い方の問題なのかもしれない。

27日に行ったダンコンサルティングの月例ミーティングは、4月から始まる「社会人力養成講座」の「質問力・分解力」に関する講師選定がテーマとなった。そこですぐに、国際弁理士のY先生と打ち合わせることとした。

冬晴れが続く中で、今年も早くも1ヶ月が経過している。コロナ禍だけに、外食することがほとんどなく、家飲みが中心になっている。帰路に夜空を仰ぐと、経済活力が沈滞しているからか空が澄み切っている。

この冬の 数える星の 多きこと ④

